

コロナ禍での外出行動変化要因の分析

～行動回復促進のために必要な施策の方向性を探る～



早稲田大学

宇藤大未・齊藤匠海・富田剣斗・那須温・榎田翼・物永凌・山下こころ・吉川太稀・佐々木邦明

1. 背景と目的

背景

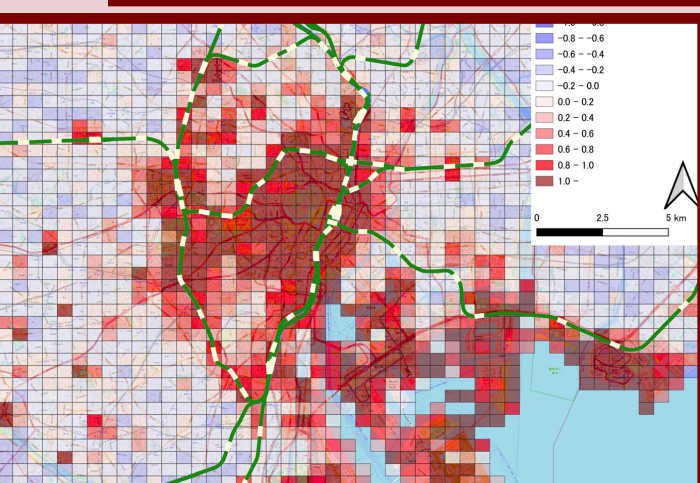
- 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、人々の暮らし方や行動は大きく変化
- 2023年5月に新型コロナウイルスは5類感染症へ移行

5類移行前

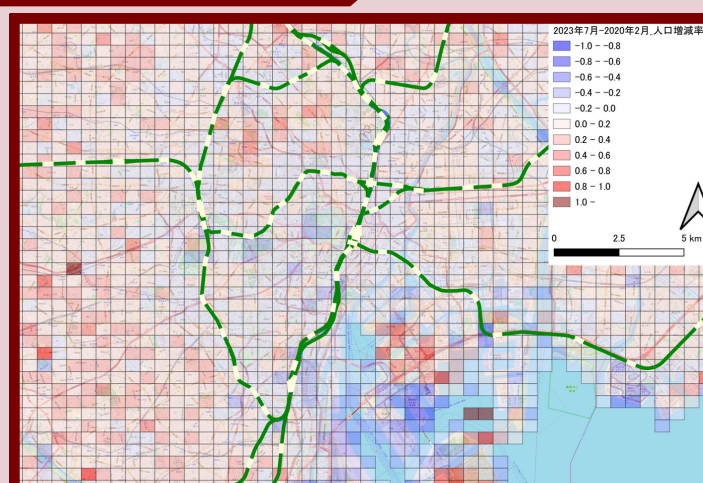
死亡率・重症化率は収束する一方で、行動頻度は非回復傾向

5類移行後

行動頻度は回復傾向もコロナ前より減少



←第一回緊急事態宣言(2020/05)と5類移行後(2023/07)の間での人口増減率
コロナ前(2020/02)と5類移行後での人口増減率→



- 人流が活発な中心市街地で、行動の回復が完全でない

目的

- 人々が行動を抑制する原因となった意識の探索
- 行動回復を促すために必要であった施策の方向性の提示

2. 使用データ

土木計画学研究委員会実施

「新型コロナウイルスに関する行動・意識調査」

- 集計期間：2020年5月～2023年7月（不定期、計10回）
- データ形式：パネルデータ
- 対象質問：全10回に共通する項目
- 有効回答数：各回1000件の内、273件（全10回の継続回答者）

3. 分析手法

潜在クラス分析

質的データを類似した傾向をもつ集団に分類する手法

コロナ禍における「日用品の買い物」「会食・外食」「その他娯楽」の外出頻度の推移が類似しているグループに分類

グループごとに、感染に対する意識の傾向が異なるか調査

相関分析

各回でのグループごとの自粛意識レベルと同時期のGoogleでの“コロナ”の検索数との相関を調査

各個人の意識の変化と世間のコロナ情勢の連動の度合いがグループごとで異なるかどうかを比較

4. 分析結果

潜在クラス分析

代表例として、「会食・外食」の結果を図-3、図-4に示す。

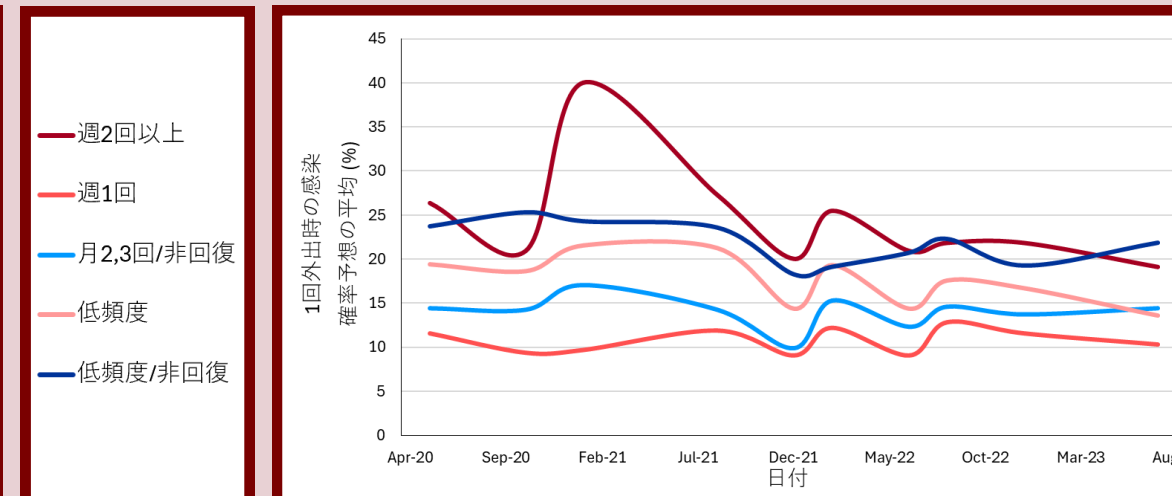
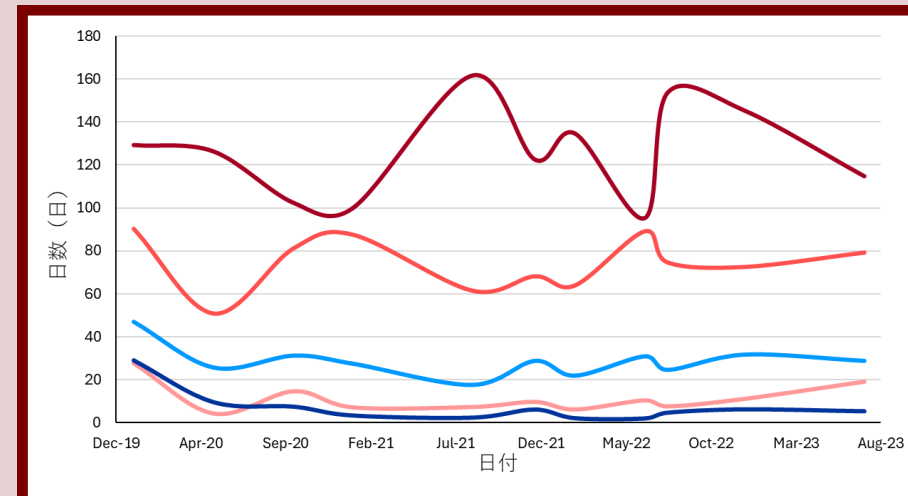


図-3 会食での外出頻度のグループ別推移

図-4 グループごとの感染確率予想の推移

特徴

- 会食・外食は5つのグループに分類された。
→行動が非回復のグループは2つ存在し、どちらもコロナ前から5類移行後にかけて4割以上頻度が減少している。
- グループごとの感染確率予想は、最高頻度が最も高く、それ以外は会食の頻度が少ないほど高かった。
→最高頻度のグループは、外出しているから確率を高くみている。それ以外は、確率を高く見ているほど外出しなくなっているという因果の逆転が見受けられる。

分析全体の成果

- 会食・外食以外も、行動頻度が高い/低い、回復/非回復で分類することができた。
- 感染に対するさまざまな意識が、グループごとで異なることを確認できた。特に低頻度/非回復群は高頻度/回復群と比べて、自粛に賛成傾向にあることが顕著であった。

相関分析

各調査回で、計17個の感染に対する意識の質問が問われている。これらと、各調査回と同時期のGoogleでの“コロナ”の検索数

(Google Trends Index)を比較することで、意識の変化とコロナ情勢の変化の対応度合いを考えることができる。会食・外食のグループごとに、17個の相関係数の値を算出し、その範囲を図-5に示す。

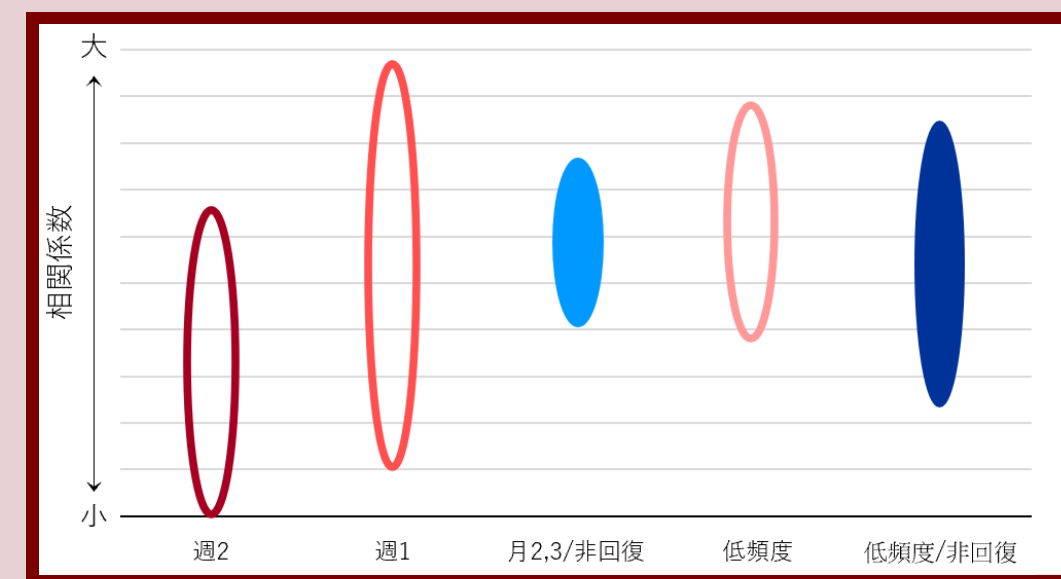


図-5 会食・外食のグループごとの意識回答とIndexの相関の存在範囲

特徴

- 最高頻度のグループは相関係数が小さい傾向がある。
- 非回復のグループは、回復のグループよりも相関係数が比較的小さい傾向がある。
- 非回復のグループは、質問による相関係数のばらつきが小さい。
→会食/外食を頻繁に行う層・行動が非回復な層は、コロナ情勢が変化してもあまり意識を変化させない。つまり、意識をアップデートしない（情報取得が受動的な）せいで、行動が回復しないと考えられる。

5. 結論

本研究の成果・提言

潜在クラス分析により、コロナ禍で外出頻度が低い/非回復な層は、感染確率を過大認識しており、正確な情報提供の必要性が示唆された。情報提供が受動的である理由として、非回復層はコロナに対する不安バイアスで、正確な情報を行動判断に活用できていない可能性があると考えられる。ゆえに、公共交通利用の回復を促す旅行支援等を施す前に、コロナへの恐怖心・不安を人々から取り除く必要がある。

課題

本研究では潜在クラス分析を実行したが、サンプル数の少なさと分類精度に課題が残る。また、相関係数からGoogle Trends Indexはコロナ情勢をある程度反映していると考えられるが、代替指標がなく合理性の判断が困難である。